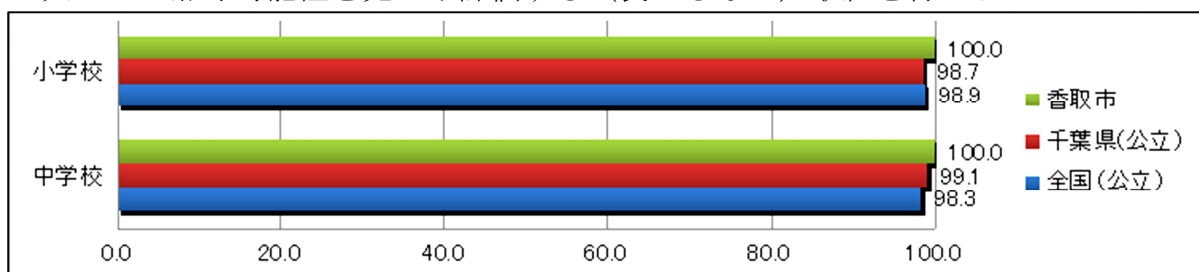


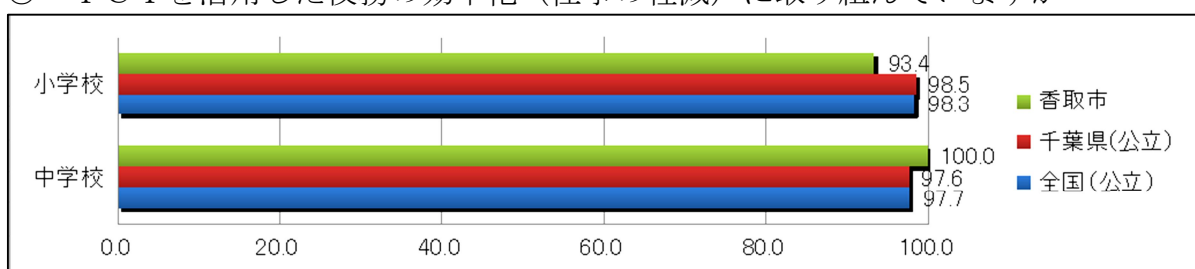
## 学校質問紙調査の結果から

※学校質問紙から一部を抜粋 ※数値は肯定的な回答をした学校の割合 (%)

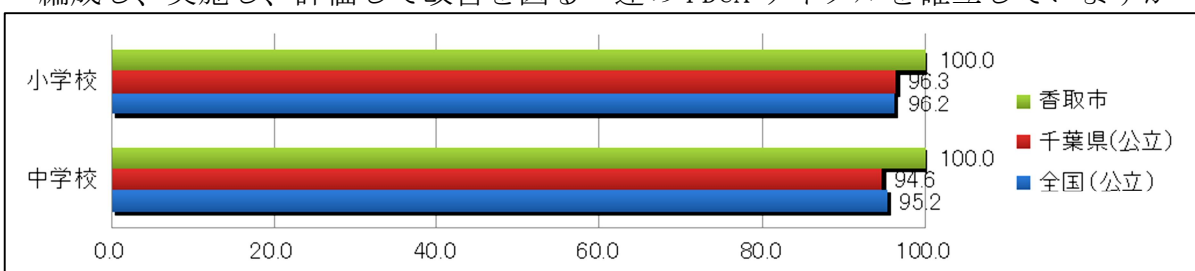
- 調査学年の児童生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行いましたか



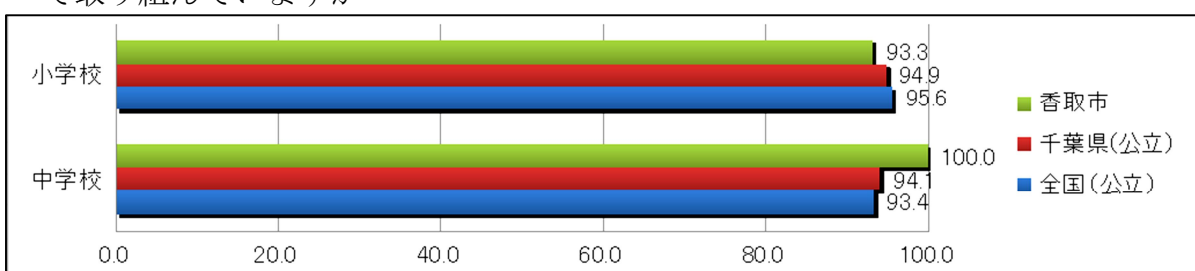
- ICTを活用した校務の効率化（仕事の軽減）に取り組んでいますか



- 児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査、各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか



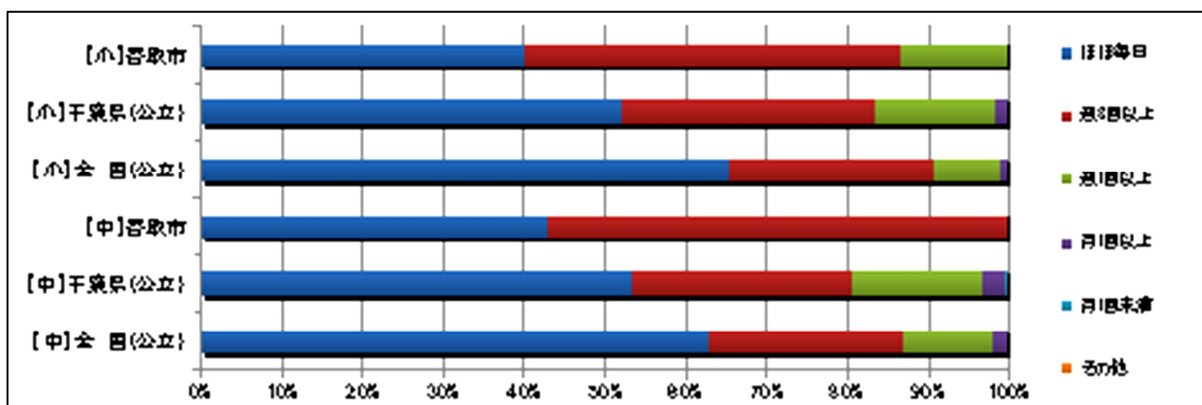
- 言語活動について、国語科を要にしつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか



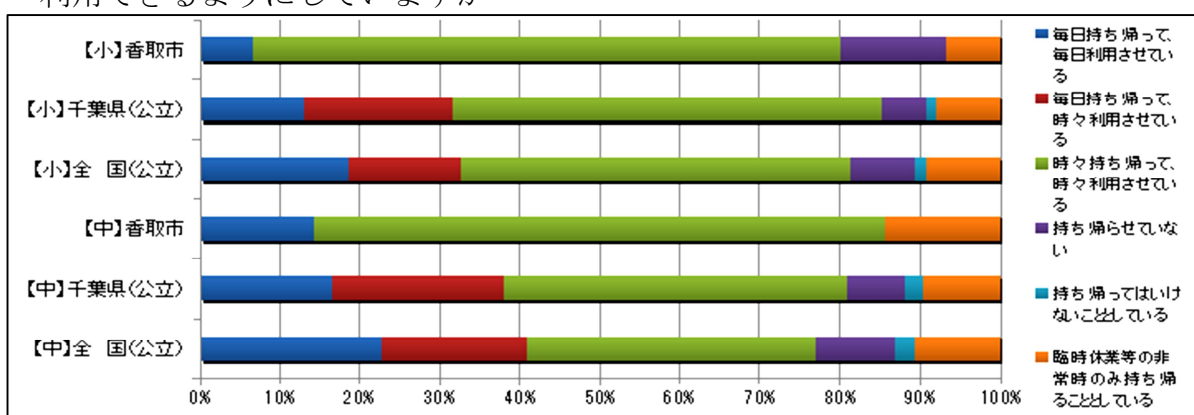
問いに対して9割以上の学校が肯定的に回答しており、児童生徒一人一人を認めて伸ばす学校づくりや、児童生徒の実態や調査、各種データに基づいた教育課程の編成と、その改善を図る一連のPDCAサイクルを機能させている学校づくりが進められていることが分かります。

また、多くの学校でICTを活用した校務の効率化にも取り組んでいる様子が分かります。良好な結果といえます。

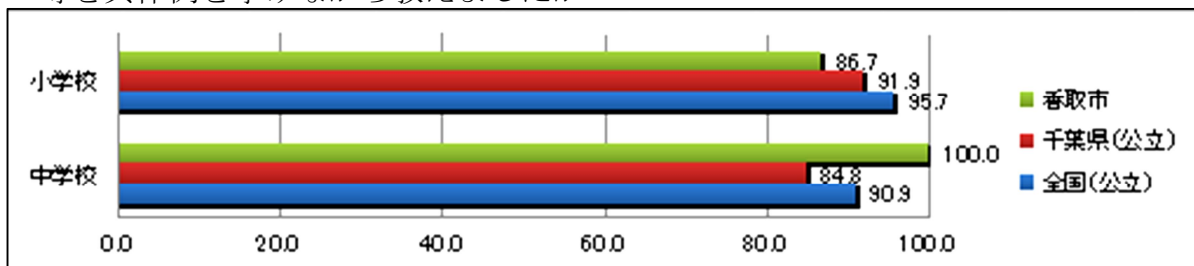
- 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器を、授業でどの程度活用しましたか



- 児童生徒一人一人に配備された PC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか



- 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学校では、家庭での学習方法等在具体例を挙げながら教えましたか



授業での ICT 活用では、全国や県と比較して「ほぼ毎日」と答えた学校の割合が低く、「週 3 日以上」と答えた学校の割合が高いことが分かりました。使用頻度と同時に、効果的な活用方法も引き続き考えていく必要があります。

児童生徒に配備されたタブレット端末の家庭への持ち帰りに関しては、「毎日持ち帰って毎日利用している」と答えた学校の割合は低く、「時々持ち帰って時々利用している」と答えた割合が高いことが分かりました。

家庭学習の方法については、中学校で具体例を挙げながら指導が進んでいる一方、小学校では全国や県と比較して低い結果となりました。家庭学習の充実と習慣化のため、より具体的かつ丁寧に指導していく必要性が感じられます。